

SIG テーマ名	CFD++の実践(演習で考える 論理設計とテスト)	オーナー名(複数なら連名で)	堀田 文明
SIG オーナー プロフィール	コンピュータメカでソフトウェアの設計、テスト、品質保証などを実践後、北陸先端大で産学連携、特許を担務。現在(有)デバッグ工学研究所所属。 日科技連、中部品質管理協会、他の組織、企業などでソフトウェアテスト、品質管理、他のテーマで研究会指導、セミナー講師などにあたる。		

## 対象者

プログラム設計技術者、テスト技術者で、テストを容易にする設計のあり方に熱意のある人。  
(話の重複を避けるため、特別講義に出席した人を対象にします)

## こんな話題でお話が出来れば

論理設計と検証のあり方。  
テスト・保守を容易にする論理設計の方法。  
決定表(デシジョンテーブル)をめぐる新技術の動向。 など

## SIG オーナーの問題意識 (テーマ選定の理由)

ソフトウェアエンジニアリングでは決定表の知識は必須とされていますが、日本のエンジニアにはあまり浸透していません。又、紹介されている決定表の話は断片的であって、決定表の全体像を知っている人はほとんどいないのが現状です。

本 SIG では特別講義で紹介する決定表の全体像をより深く理解していただくために、演習を行い、参加者間の意見交換などを行います。

## 最後に

楽しくて、技術的にも中身のある SIG をやりましょう。

SIG テーマ名	探索的テスト	オーナー名(複数なら連名で)	都築 将夫
SIG オーナー プロフィール	<p>某メーカーの子会社でファームウェアテストのグループとりまとめ&amp;担当しています。 最近の活動は、下記の3点でした。</p> <p>(1)TEF 東海合宿実行委員長として TEF 東海合宿(第1~2回目)の運営&amp;企画 (2)TEF 東海メトリクス勉強会からソフトウェアメトリクスの同人誌である「TEF 東海メトリクス公団」に記事を寄稿 (3)TEF 東海原因分析勉強会に参加</p> <p>これからの活動は、下記を企んでいます。</p> <p>(1)「探索的テスト研究会」を立ち上げる予定 (2)2014年春期に「TEF 東海合宿(第3回目)」を実施する予定 (3)TEF 東海の勉強会有志から2014年に開催するであろう「テスト設計コンテスト」出場を検討</p>		

## 対象者

- (1)探索的テストを探索しつつ、探索的テストを実践しようと企んでいる方
- (2)メンバーの英知を力にしたい方
- (3)網羅的テストを1回以上実施したが、潜在バグが多くてお悩みの方
- (4)現場の問題点を共有しつつ、次なる一手となるネタを考えようと思う方
- (5)昨年のSIGに参加された方 or 今年もSIGに参加しようと思っている方
- (6)「探索的テストって、何ぞや?と気になった」初参加の方

## こんな話題でお話が出来れば

- (1)探索的テストで何のために何を探索するのか?
- (2)昨年のSIGで気付いたことは何か?
- (3)みなさんの小さな工夫をお互いに発信できれば...

## SIG オーナーの問題意識 (テーマ選定の理由)

- (1)探索的テストは様々な解釈や誤解があり、ad hoc テスト(場当たりのテスト)との違いが区別しにくいのが実情です。探索的テストがバズワード(buzzword)とならず、有効なテストへ発展させるためには、何の要素が必要か考えていきたいです。
- (2)少しでも体系的に探索的テストの知見を整理し、実務的な探索的テストが実施できるようなフレームワークを見出したいです。
- (3)創造性の高いテストを実現するには、何の要素が必要なのか考えていきたいです。

## 最後に

何のために何を探求し探索するのか、みなさんと共に考えるきっかけとなれば幸いです。

また、JaSST'13 東海のテーマである「Beyond The Testing ~その殻を壊せ!もっと先へ~」の想いを胸に我々が一步一步踏み出すには、どのように考えどのように行動すればよいか、共に考えていきましょう!

SIG テーマ名	マインドマップをぐるぐる するワークショップ	オーナー名(複数なら連名で)	加子 勝茂
SIG オーナー プロフィール	<p>2006年4月に、マインドマップに出会い、仕事やプライベートで、使っています。</p> <p>2009年5月に、複数人でマインドマップを書くのもいいんじゃないか?と思い付き、メソッド?としてまとめたのが、「ぐるぐるマインドマップ」です。</p> <p>2009年9月から「ぐるぐるマインドマップ」ワークショップを毎月名古屋でやってます。たまに県外でも開催してます。</p> <p>2012年11月にTLI(ThinkBuzan 公認マインドマップ (R)インストラクター)になりました。本業は、ユーザ系 IT 企業に勤務する IT 技術者です。</p>		

## ■対象者

ぐるぐるマインドマップってなんやねん?

マインドマップって聞いたことあるけど、なんなのさ?

マインドマップを書いたことあるけど、今一どこがいいのわかんないんだよね。

まとめると、マインドマップ(または、ぐるぐるマインドマップ)に興味があれば、どなたでも、

## ■参加のメリット

ワークショップ形式でマインドマップを書く体験ができます。

マインドマップが「イメージ」と「色」を多用する理由と脳の動きの関係性について学べます。。

マインドマップの書き方について、理解できます。

## ■マインドマップとソフトウェアテスト

書籍「マインドマップから始めるソフトウェアテスト」のように、マインドマップをソフトウェアテストのツールとして活用が可能です。本SIGでは、マインドマップ自体にフォーカスします。マインドマップの適用範囲は、参加するあなた次第です。

## ■宿題

みんなの悩みにみんなで答える「ぐるぐるマインドマップ」を書くワークをやりますので、悩みを用意の上のご参加ください。(笑)

以上

SIG テーマ名	機能ブロックと擬似コードをテストに用いる ～仕様どおりから、より良いモノづくりへ～	オーナー名(複数なら連名で)	鳥本 明男
SIG オーナー プロフィール	開発をともにするメンバと機能ブロックと擬似コードが、ソフトウェア開発とテストに必須のツールであると信じて、日々、切磋琢磨。ある日、「僕は、知らず知らずのうちに、みんなにアジャイルソフトウェア開発を求めているね。」といったところ、「今頃、何をいっているんですか。そんなことわかりきったことでしょ。」と。ここで初めて気づく。機能ブロックと擬似コードは、アジャイルソフトウェア開発に適したツールなんだと。この2つのツールは、モノづくりの様々な場面で活躍します。その素晴らしさをみなさんに紹介したくて、この場にいます。一緒に、わいわい話しましょう！！		

## 対象者

- ・要求仕様書や設計書のレビューを行われる方
- ・これからプログラミングをはじめの方、プログラミングをはじめて間もない方
- ・要求仕様書からテストのための入出力をどのように読み取ればよいの？と思われる方
- ・レビューをレビューのためだけに終わらせたくないとお考えの方
- ・レビュー結果を、成果物の一部にとお考えの方
- ・当 SIG に興味のある方
- ・有識者の方々

## こんな話題でお話が出来れば

- ・要求仕様書に記載されている内容がわかりにくいと感じる理由
- ・要求仕様書をレビューする際、どのような観点でレビューをする？
- ・要求仕様書から設計書へ、設計書からコードへ、どのようにすれば意図したものが出来上がる？
- ・要求仕様書からテスト設計をする際、要求仕様書をどのように読むと良い？

## SIG オーナーの問題意識（テーマ選定の理由）

ソフトウェア開発に携わるメンバ全員がよい良いソフトウェアを作ろうと頑張っているのに出来上がったソフトウェアは、仕様どおりでなかったり、仕様どおりではあるがテストを行うのが難しかったりと頑張ろうとしている意識とは、かけ離れたソフトウェアが作られて、期限までに作り直しとテストを繰り返し、なんとか、期限に間に合わせているような状況があるのでは？と感じております。要求仕様書で記載されていることを理解して、設計書を作成したはずなのに、設計書で記載されていることを理解して、ソフトウェアを製作したはずなのに、要求仕様書の要件を確認するテスト設計をしたはずなのに、どうして、作り直しやテストを繰り返すことになってしまったんだろうと思う日々を繰り返さないために、私が考えている解(かい)をみなさんに紹介し、みなさんとお話させていただくことで、みなさんと一緒に一つの解を見つけ出す、そのような場となればと思っています。

## 最後に

機能ブロックと擬似コードを用いて、ソフトウェアの開発とテストを行っています。

レビューのツールとしても、設計書としても、使い勝手が良く、簡単に始めることができる2つのツールが、みなさんの作業のお役に立つか、みなさんが何かを思いつききっかけになればと思っています。

みなさんからお話を聞き、機能ブロックと擬似コードを用いたソフトウェアの開発の良い点や悪い点が見つかり、改善することができればと考えております。

一緒に考え、前に進んでいきたいです。

SIG テーマ名	今一度考えてみるテスト駆動開発とユニットテスト	オーナー名(複数なら連名で)	山本 博之
SIG オーナープロフィール	某ベンダーでサーバー向けパッケージ製品の開発にたずさわるかたわら、2007 年より地域コミュニティ「名古屋アジャイル勉強会」を主催しています。ワークショップ形式の勉強会や読書会の開催を通じて、アジャイル開発手法の探求・普及に取り組んでいます。		

## 対象者

- テスト駆動開発に関心あるいは疑問のある方
- ユニットテストに関わりのある方

## こんな話題でお話が出来れば

- ユニットテストとはなにか、あるいはなにでないか
- テスト駆動開発におけるユニットテストとはなにか、あるいはなにでないか
- xUnit 等のフレームワークを用いたユニットテストは、何ができるのか、何ができないのか
- (アジャイル開発に限らない)開発プロセスの中で、ユニットテストをどう用いていくべきか

## SIG オーナーの問題意識 (テーマ選定の理由)

テスト駆動開発やその過程で使用するユニットテストについて、今では書籍や Web の解説記事、ワークショップなど多くの情報があります。テスト駆動開発やユニットテストの認知度は高まっているとは思うものの、どういったものか今一つはつきりしない、どう使っていけばいいのかぼんやりしている、という方もおられるのではないのでしょうか。テスト駆動開発で使用するユニットテストは従来の単体テストと同じものなのか、違うのか。違うとしたら、どう違い、どう使えばいいのか。そんな疑問をお持ちの方はいらっしやらないでしょうか。

この SIG では、そういった疑問を解きほぐし、テスト駆動開発や xUnit 等のフレームワークを用いたユニットテストを導入し有効活用するための初めの一步になることを目的に、参加者の皆さんの持っている疑問や考え、経験等を話し合ってみたいと思います。

## 最後に

開発者の方はもちろん、テスト技術者の方、マネージャの方にも、参加いただけたらと思います。それぞれの立場から、テスト駆動開発やユニットテストに求めるものがなんなのか、それを実現するにはどうすればいいのか、一緒に議論しましょう。ぜひご参加ください。

SIG テーマ名	テストに対する不安・不満・負担を共有しよう！解決のヒントを探ろう！	オーナー名(複数なら連名で)	柏原一雄 池永直樹
SIG オーナー プロフィール	<p>柏原一雄 2000年(株)デンソークリエイイト入社 携帯電話、カーナビゲーション開発支援ツールの開発を経て、2006年よりSQA、SEPG、教育業務に従事している。 Automotive SPICE Provisional Assessorの資格保有。</p> <p>池永直樹 2003年(株)デンソークリエイイト入社 カーナビゲーション、ETCなどITS製品のソフト開発を経て、2012年よりSQA、SEPG、教育業務に従事している。 Automotive SPICE Provisional Assessorの資格保有。</p>		

## 対象者

日頃、負担・不満・不安を感じている若手エンジニアの皆さん!

## こんな話題でお話が出来れば

- ・感じている負担・不満・不安
- ・過去の取り組み
- ・最近始まった取り組み など

## SIG オーナーの問題意識 (テーマ選定の理由)

不安・不満・負担は、改善のための大切な入力となります。整理し、解決すべき問題を特定しましょう。

皆さんが抱えている悩みは、個人のものではなく、業界全体の悩みであることが多いです。同じ悩みを他の誰かが抱えていることも多いはずですし、さらには、他の誰かが既に解決した悩みかもしれません。皆さんが抱えている課題や問題を共有することで、解決のヒントが得られるのではないのでしょうか？

## 最後に

皆さんが抱えている課題や問題を共有し、解決するためのヒントを探っていきましょう!